

芸術の都、パリ。世界中の芸術家が好んでその活動拠点として選択する街、この街(都市)には、世界最大の美術館ルーブルが有り、外の美術館を含めるとその所蔵量は計り知れない。

実際に美術館に足を運んでいくと美術館の中で、小さな子供たち、或いは高校生らが課外授業として、実際の絵画を見ながら説明を受けているのを色々な美術館で目にした。又画家がスキルアップのために模写を行う話は、聞いたことがあったが、美術館内部でそれが行われていたのには、驚いた。美術の教科書に出ている絵画がそこら中に有りフラッシュをたかなければ写真撮影もOK。日本の美術館では到底考えられない光景である。

芸術に寛大で小さい頃からこのように親しんでいる環境が出来ていれば、芸術家が集まり、個々の美意識が高くなるのは、当然のことだろうと思えた。

